

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月11日現在

機関番号：32682

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2010～2011

課題番号：22820065

研究課題名（和文） 九世紀漢文学史における「貞観の治」と文章経国思想

研究課題名（英文） The Genealogy of the Ideal Reigns of Emperors; *Tang Tai-tsung "Chên-kuan"* (627-49), *Saga "Konin"* (810-23), *Seiwa "Jogan"* (859-77) and *Uda "Kanpyo"* (889-97), that is Chinese Literary Criticism for Ordering the State

研究代表者

木下 綾子 (KINOSHITA AYAKO)

明治大学・研究・知財戦略機構・ポスト・ドクター

研究者番号：90530064

研究成果の概要（和文）：清和朝（「貞観」859-77）を初唐・太宗の「貞観の治」（627-49）に倣った文治主義の時代と見なす先行研究を出発点として、清和朝、および、その前後で漢詩文隆盛期であった嵯峨朝（「弘仁」810-23）、宇多朝（「寛平」889-97）における文学作品、歴史書、政治書を調査し、「貞観の治」に関する語句や思想が受容されていることを確認した。そして、三朝に通底する「貞観の治」受容の様相こそが、漢文学史上の重要課題である文章経国思想の展開と重なることを論じた。

研究成果の概要（英文）：The starting point of this research is the precedence research which makes *Seiwa era "Jogan"* (859-77) the time of the principles of civilian government which imitated *Tang Tai-tsung era "Chên-kuan"* (627-49).

The literary work in *Saga era "Konin"* (810-23) and *Uda era "Kanpyo"* (889-97) which were the classical Chinese literary (*kanbun*) peak terms the *Seiwa era* and before and behind that, a history book, and a political document are investigated, it checked that the expression about "*Chên-kuan*" was received.

As a result, just the aspect of "*Chên-kuan*" acceptance seen through three times proved departure of the Chinese literary criticism for ordering the state that is the most crucial question of in the Japanese literary world.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,090,000	327,000	1,417,000
2011年度	450,000	135,000	585,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,540,000	462,000	2,002,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、日本文学

キーワード：日本文学、日中比較文学、9世紀、貞観、文章経国思想

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来、日本漢文学においては、文章経国思想の発生源とした嵯峨朝（809-23）を最初の漢詩文隆盛期、宇多朝（887-97）をその次の隆盛期と見なしてきた。しかし、近年、日本史学の立場から、両朝の間にある清和朝（858-76）にも、「貞観」という年号に示されるとおり、初唐・太宗の「貞観の治」に倣った文治政策が取られていたとの指摘がなされた。

(2) 太宗の文学観や政治観をあらわすテキストは、嵯峨朝の文章経国思想に関する文書や宇多朝の政治書においても引用されている。以上のことから、「貞観の治」を視座とすることで、嵯峨朝、清和朝、宇多朝という9世紀の三朝を通史的に考察することが可能であるとの着想を得た。

2. 研究の目的

(1) 清和朝について、文治主義の面から再評価し、嵯峨朝・宇多朝と関連付けて文学史上に定位するとともに、嵯峨朝を超える文運隆盛の意図を読み取る。

(2) 研究上の最重要課題である文章経国思想とその変遷について、「貞観の治」を視座とした通史のかつ複眼的な見解を示すことで、最終的には日本漢文学史・思想史の再構築を目指す。

3. 研究の方法

(1) 太宗の「貞観の治」に関連する文学作品・歴史書・政治書を読解し、文治主義をあらわす語句・表現等を析出する。

(2) (1)のデータを比較対象としながら、嵯峨朝、清和朝、宇多朝、およびその前後の時代のテキストから共通あるいは相反する箇所を拾い出す。

(3) (1) (2)のデータにもとづき、各朝における特徴を把握し、近い二朝（嵯峨朝と清和朝、清和朝と宇多朝）、あるいは隔たった二朝（嵯峨朝と宇多朝）について比較検討を行う。そのうち、三朝（嵯峨朝、清和朝、宇多朝）にわたって「貞観の治」がどのように受容され、また、文章経国思想がどのように変容したかを通史的に考察する。

(4) (1) (2)の文字データに加え、テキストのデジタル画像データを採取・加工し、口頭発表、および、学術論文・報告書、インターネットによって順次公表していき、広く意見を募ることで、研究内容と方法の深化・発展を

目指す。

4. 研究成果

(1) 太宗の時代や、嵯峨朝、清和朝、宇多朝とその前後の時代に成立した文学作品（儒学に関するテキストを含む）、歴史書、政治書（法典を含む）を読解し、「貞観の治」やその他の文治主義に関連する表現を析出した。対象としたテキストは、以下のとおりである。

① 「貞観の治」関連テキスト

・同時代

…（文学作品） 『翰林学士集』
（歴史書） 『晋書』 『梁書』
『陳書』 『周書』
『隋書』
（政治書） 『帝範』

・後代

…（歴史書） 『旧唐書』 「太宗紀」
『新唐書』 「太宗紀」
（政治書） 『資治通鑑』 『貞観政要』

② 日本・9世紀のテキスト

・嵯峨朝とその前後

…（文学作品） 『凌雲集』 『文華秀麗集』
『経国集』
（歴史書） 『続日本後紀』
（政治書） 『新撰姓氏録』

・清和朝とその前後

…（文学作品） 『田氏家集』 『都氏文集』
『菅家文章』 『本朝文粹』
（歴史書） 『続日本後紀』
『文徳天皇実録』
『日本三代実録』
（政治書） 『貞観格』 『貞観式』

・宇多朝とその前後

…（文学作品） 『菅家文章』 『菅家後集』
『本朝文粹』
（政治書） 『寛平御遺誡』 『寛平御記』

(3) 「貞観の治」と嵯峨朝、清和朝、宇多朝、そして各々の比較検討により、三朝に通底する「貞観の治」受容こそが、漢文学史上の重要課題である文章経国思想の展開と重なることを解明した。

各論としては、以下のことが分かった。

① 従来、文運衰退期と見なされていた清和朝が太宗の「貞観の治」を手本としており、嵯峨朝を超える文運隆盛を目指していた。

② ただし、応天門の変以前の言論統制や「詩人無用論」の登場、文治政策がとられたにも関わらず漢詩文が国家事業として展開されなかったように、詩人たちは為政者の都合によって動かされていた。

③ 当時、新進官僚としてこれらを間近で見ていた菅原道真は、後年、この時代を史書『日本三代実録』に記すにあたり歴史批判を行ったほか、宇多天皇とともに、嵯峨朝のような天皇主導の詩人たちが国政に参加する体制を整備し、清和朝の「貞観の治」を修正しつつやりなおす意図があったと推察できた。

(4) 本研究の学術的な特色や独創的な点は、以下のとおりである。

① 従来、同一の観点から関連させられることのなかった嵯峨朝、清和朝、宇多朝を通史的に論じた。

② あまり研究のなされてこなかった清和朝について、理解が促進された。太宗の「貞観の治」との類似点を解明することで文治主義の面から評価し、9世紀漢文学史において2度の盛行期である嵯峨朝と宇多朝の関連を見出し、文学史上に位置付けた。

③ 比較的研究が進んでいる嵯峨朝と宇多朝についても、清和朝との比較によって示唆を与えることができた。

④ 漢文学研究において重要課題となっている文章経国思想の変遷について新しい見解を提示できた。具体的には、従来、文章経国思想は清和朝において無効化されたこととらえられてきたが、本研究を行うことにより、当時の意識においては嵯峨朝以上の文運隆盛をまねく意図のあったことが証明できた。

⑤ 同じく重要課題である清和朝と宇多朝の「詩人無用論」について、新たな視点で比較検討できた。

(5) (1)の過程で得た、テキストと先行論文についての文字データ、およびデジタル画像データを加工・成形することにより、重要語句の検索を可能にした。

(6) 日本、中国、台湾、韓国の研究者に対して、口頭発表、学術論文によって研究成果を公開し、広く意見を募った。その結果、各国の各時代における「貞観の治」の受容や先行研究、研究上の方法論について示唆を得た。

また、中国と台湾には、現地に赴くことで、有効な情報交換を行えたほか、資料の購入閲覧や気候風土の把握において重要な知見を得た。

(7) 本研究を通じて生じた新たな検討課題は、当初、個別のものと想定されていた三朝と「貞観の治」の影響関係が、複線的であると分かったことである。具体的には、以下のとおりである。

① 嵯峨朝
…前段階として、7世紀の天智朝や8世紀の桓武朝における受容がある。

② 宇多朝
…「貞観の治」の直接的な影響のほかに、中宗、玄宗、憲宗など、後代の受容を通じた間接的な影響が分かった。

今後は、上記の資料も含め、広範囲に調査検討を進めることで、9世紀漢文学史を構築し、最終的には日本漢文学史・思想史の再構築を目指したい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① 木下綾子、菅原道真と醍醐天皇—『菅家後集』四八二—「九月十日」の帝王像—、古代学研究所紀要、査読無、16巻、2012、pp. 1-15、

② 木下綾子、菅原道真「和副使見訓之作。本韻。」(『菅家文章』巻五・四二四)、早稲田大学古典籍研究所年報、査読無、4巻、2011、pp. 57-64

[学会発表] (計1件)

① 木下綾子、貞観期の菅原道真—『菅家文章』巻一・二—「秋夜。離合」を中心に—、和漢比較文学会東部例会、中央学院大学、2011、1

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

木下 綾子 (KINOSHITA AYAKO)
明治大学・研究・知材戦略機構・ポスト・ドクター
研究者番号：90530064

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし